

全国の里地里山の現状分析

1. 現存植生図から見た里地里山的環境の全国分布と社会・地理的条件

現存植生図において、農耕地（植生自然度 2・3）、二次草原（植生自然度 4・5）、二次林（植生自然度 7 と、8 のうちシイ・カシ萌芽林）の合計面積が 50%以上を占めており、かつ、3つのうち少なくとも 2つの要素を含む 3次メッシュを「里地里山的環境」と仮定し、全国における分布を分析した。里地里山的環境を有するメッシュ（以下、本資料では仮に「里地里山メッシュ」と表現する）は日本国土の約 4割（39.4%）を占めており、全国に広く分布している。

→里地里山メッシュの全国分布は参考資料 2 (P1) 参照

また、里地里山メッシュにおける社会的状況（人口、人口密度、高齢化率、就業人口における第一次産業人口の占める割合）及び地理的状況（標高、地形）の分析を行った。分析結果の集計は表 2-1 に示した。

里地里山メッシュの人口合計は、全国の人口合計の約 33%を占めるが、人口密度は約 275 人/k²と全国の平均を下回っている。里地里山メッシュの高齢化率は全国平均と大差ないが、第一次産業率はやや全国平均を上回っている。

都道府県別に見ると、人口が集中する三大都市圏等の里地里山メッシュでは人口密度が 1,000 人/k²以上の場合もあり、また、高齢化率、第一次産業の占める割合も低い傾向にある。対照的に、里地里山メッシュの人口密度が 100 人/k²以下の都道府県もあり、このような都道府県では高齢化率や第一次産業の占める割合も高い傾向にある。里地里山メッシュの中でも都市域との距離によって、社会的条件は異なる傾向が見られる。

全国の里地里山メッシュの平均標高は 280m であったが、茨城県、千葉県、沖縄県といった平均標高が 100m に満たない都道府県から、山梨県、長野県のように平均標高が 800m 以上の都道府県もあり、標高分布は都道府県によって大きく異なる傾向が見られた。平均標高が低い都道府県、全国平均とほぼ同等の都道府県、平均標高が高い都道府県について、標高別の里地里山の分布状況を分析した。分析結果の集計は表 2-2、図 2-1 に示した。

県内の多くが平地や丘陵地であり、山地の少ない千葉県、茨城県では、里地里山の約 9割が平均標高+100m の範囲に含まれている。一方、県内に多くの山地を含む山梨県、長野県は、平均標高+300m 以上の山地にも 2割ほどの里地里山が存在している。山形県や栃木県のような平地から山地まで広く含む県では概ね中間の傾向となり、平均標高+200m の範囲に約 85%の里地里山が含まれる。

表 2-1 里地里山メッシュの都道府県別の社会環境指標及び平均標高

都道府県	人口 (千人)	人口密度 (人/km ²)	高齢化率 (%)	第一次産業率 (%)	平均標高 (m)
北海道	1,430	90	21%	11%	116
青森県	397	154	24%	20%	108
岩手県	590	79	27%	19%	334
宮城県	743	218	22%	10%	142
秋田県	433	83	30%	17%	178
山形県	520	117	27%	14%	307
福島県	1,131	129	24%	12%	432
茨城県	1,030	425	20%	9%	68
栃木県	1,459	358	19%	8%	282
群馬県	973	424	21%	8%	510
埼玉県	3,342	1,580	16%	3%	217
千葉県	2,866	748	18%	6%	46
東京都	1,569	2,878	18%	1%	210
神奈川県	1,750	1,454	18%	2%	290
新潟県	511	112	29%	14%	183
富山県	479	321	23%	5%	142
石川県	514	190	23%	6%	129
福井県	266	149	23%	7%	212
山梨県	416	160	22%	11%	813
長野県	1,133	188	25%	15%	889
岐阜県	856	198	22%	5%	497
静岡県	1,445	465	20%	7%	338
愛知県	1,265	737	15%	5%	151
三重県	768	474	20%	5%	141
滋賀県	726	314	18%	5%	295
京都府	820	243	22%	7%	224
大阪府	1,196	1,500	17%	2%	186
兵庫県	2,279	423	20%	4%	206
奈良県	582	693	20%	4%	324
和歌山県	361	344	23%	13%	182
鳥取県	160	102	27%	17%	313
島根県	458	105	28%	11%	273
岡山県	1,334	205	24%	8%	312
広島県	2,112	262	21%	5%	383
山口県	847	199	25%	9%	194
徳島県	541	298	25%	10%	286
香川県	384	277	25%	11%	193
愛媛県	576	268	25%	12%	216
高知県	390	160	26%	15%	274
福岡県	1,021	621	21%	6%	109
佐賀県	155	275	22%	11%	174
長崎県	402	246	24%	11%	110
熊本県	592	215	23%	14%	330
大分県	403	180	23%	10%	294
宮崎県	601	248	24%	14%	329
鹿児島県	281	143	28%	19%	151
沖縄県	421	521	16%	9%	43
里地里山 (全国集計)	42,526 (33.3%)	275	21%	8%	280
全国	127,768	343	20%	5%	373

表 2-2 里地里山メッシュの標高別分布状況（特徴的な都道府県を抽出）

標高(m)	標高が低い都道府県		標高が平均的な都道府県		標高が高い都道府県	
	千葉	茨城	山形	栃木	山梨	長野
0-100	3184	191	494	944	0	0
100-200	408	204	894	1219	0	18
200-300	44	55	1005	717	0	124
300-400	1	7	786	294	149	189
400-500	0	5	556	170	295	201
500-600	0	4	316	90	503	225
600-700	0	7	154	82	772	252
700-800	0	16	67	82	806	247
800-900	0	7	40	67	736	241
900-1000	0	5	31	63	746	250
1000-1100	0	2	12	61	488	209
1100-1200	0	2	7	52	393	151
1200-1300	0	2	3	23	251	107
1300-1400	0	3	0	18	185	87
1400-1500	0	3	0	20	146	83
1500-1600	0	3	0	11	118	54
1600-1700	0	1	0	7	104	23
1700-1800	0	0	0	3	49	5
1800-1900	0	0	0	1	17	4
1900-2000	0	0	0	0	11	1
合計	3637	517	4365	3924	5769	2471
平均標高(m)	46	68	307	282	889	813
平均標高+100m以上	177(5%)	67(13%)	1140(26%)	781(20%)	1840(32%)	942(38%)
平均標高+200m以上	12(0%)	55(11%)	602(14%)	605(16%)	1322(23%)	697(28%)
平均標高+300m以上	0(0%)	50(10%)	298(7%)	512(13%)	927(16%)	512(21%)

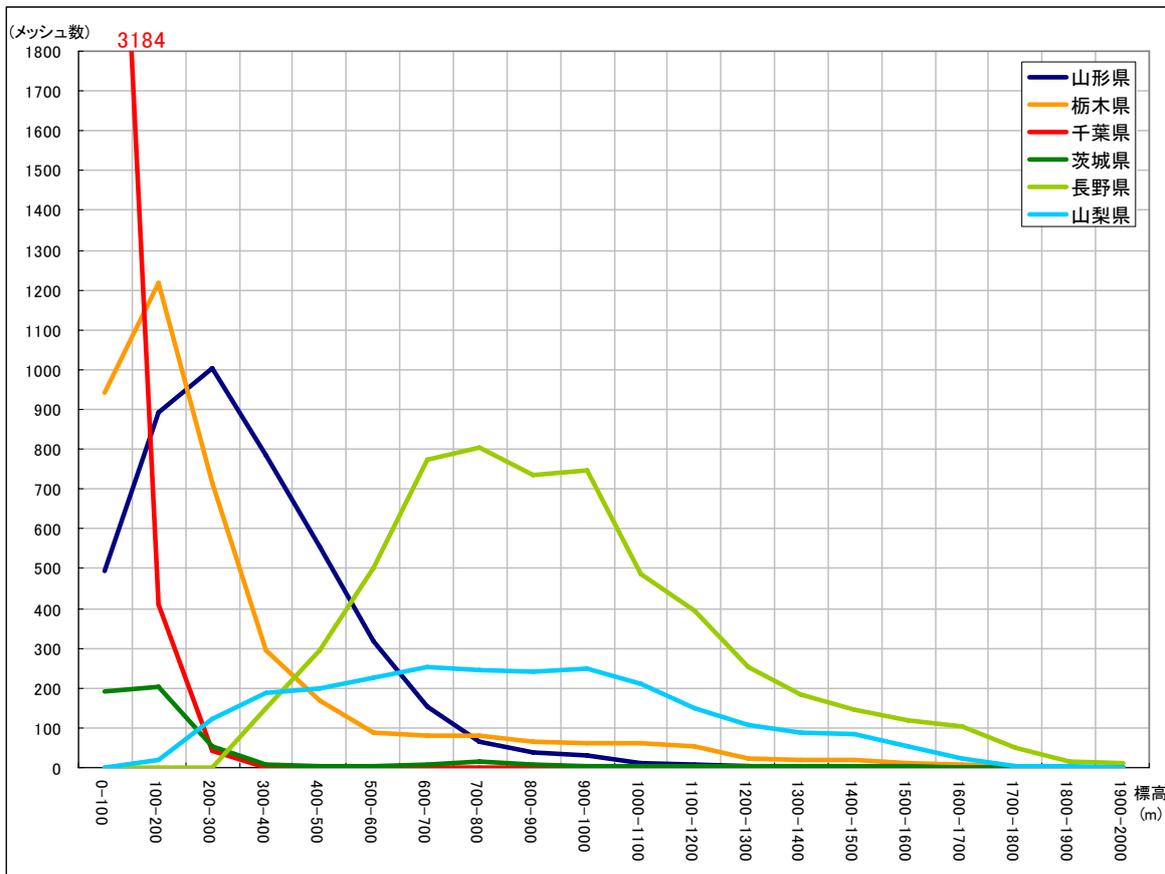


図 2-1 里地里山メッシュの標高別分布状況（特徴的な都道府県を抽出）

2) 里地里山の類型区分（試行）

既存の全国的データを用いて、主に「都市化の程度・距離関係」と「地形条件」から里地里山メッシュの分類を試行的に行った。まず、大都市近郊地域、都市周辺地域、中山間地、奥山周辺地域の4つ区分を設け、さらに都市周辺地域は「平地・盆地・丘陵地」と「山地」の2つに、中山間地については海岸に近い部分を「海岸・離島」として分類した。具体的な分類の手順を図2-2に、また、分類された里地里山の都道府県別のメッシュ数を表2-3に示した。

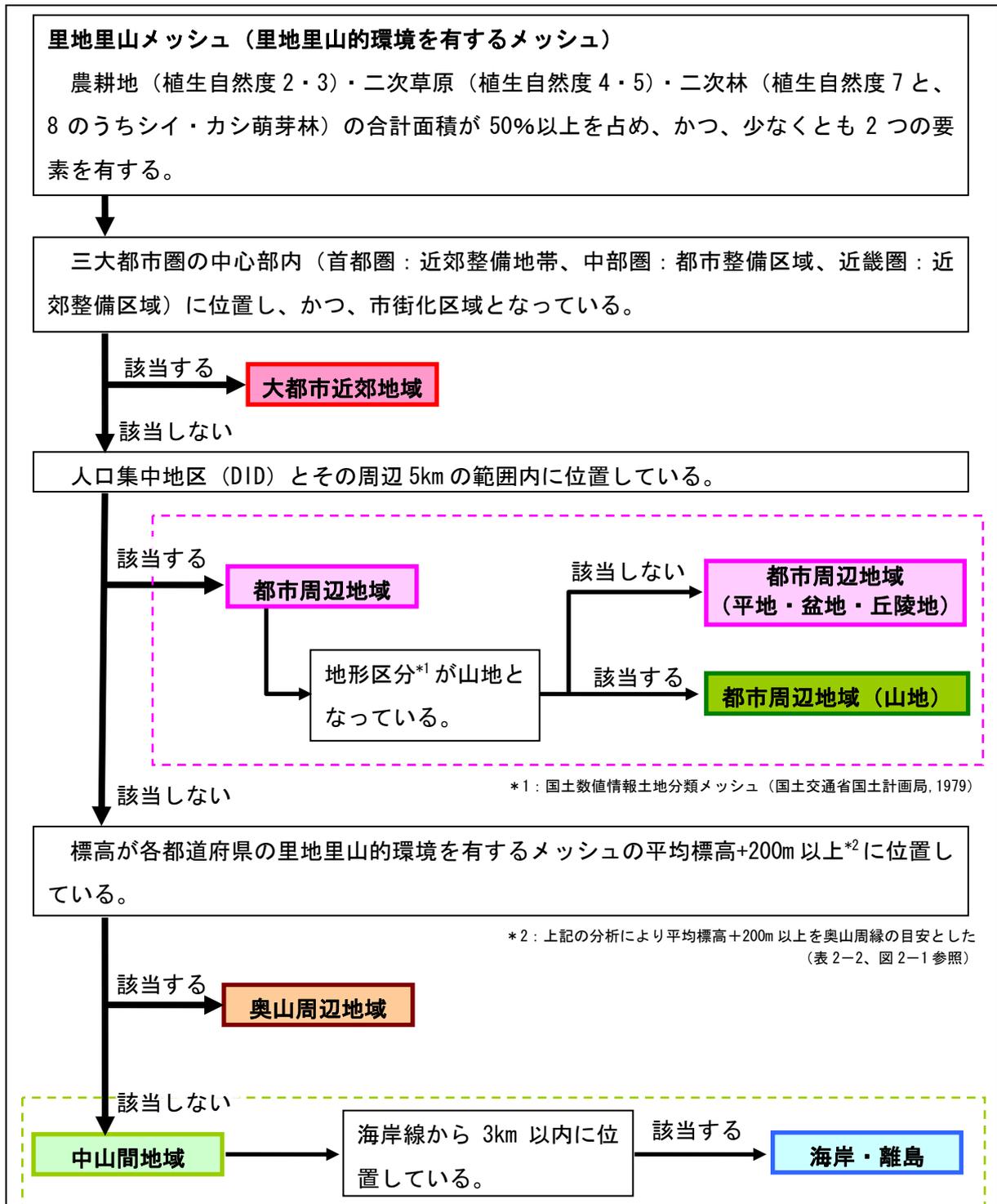


図2-2 里地里山の類型区分の試行的手順

表 2-3 里地里山メッシュの都道府県別の類型別メッシュ数

都道府県	大都市近郊	都市周辺 (低地等)	都市周辺 (山地)	中山間地	海岸・離島	奥山周縁	合計
北海道	0	1,492	1,137	11,422	1,751	985	16,787
青森県	0	457	301	1,478	278	111	2,625
岩手県	0	252	726	4,965	261	1,251	7,455
宮城県	0	603	444	1,809	117	386	3,359
秋田県	0	0	0	4,353	297	560	5,210
山形県	0	232	844	2,659	80	550	4,365
福島県	0	565	1,046	5,167	142	1,628	8,548
茨城県	19	930	159	1,055	32	127	2,322
栃木県	0	696	1,084	1,541	0	603	3,924
群馬県	0	241	601	746	0	621	2,209
埼玉県	257	815	474	140	0	338	2,024
千葉県	233	1,463	305	1,343	273	20	3,637
東京都	220	35	113	2	93	54	517
神奈川県	183	261	417	83	0	199	1,144
新潟県	0	384	654	2,580	603	249	4,470
富山県	0	425	215	640	35	132	1,447
石川県	0	431	277	1,114	642	161	2,625
福井県	0	284	329	584	309	211	1,717
山梨県	0	74	592	1,136	0	669	2,471
長野県	0	169	1,706	2,652	0	1,242	5,769
岐阜県	0	302	781	2,149	0	904	4,136
静岡県	0	635	826	628	230	621	2,940
愛知県	133	549	392	277	69	208	1,628
三重県	37	421	271	427	244	132	1,532
滋賀県	0	178	646	1,008	0	367	2,199
京都府	53	374	800	1,484	201	299	3,211
大阪府	149	152	384	32	0	36	753
兵庫県	133	715	1,125	2,368	324	444	5,109
奈良県	0	134	351	214	0	93	792
和歌山県	0	184	221	418	75	88	986
鳥取県	0	92	76	933	80	308	1,489
島根県	0	322	215	2,745	336	639	4,257
岡山県	0	707	748	3,241	164	1,301	6,161
広島県	0	626	1,516	2,502	320	2,637	7,601
山口県	0	478	538	2,061	577	332	3,986
徳島県	0	297	203	997	90	119	1,706
香川県	0	208	208	378	231	283	1,303
愛媛県	0	289	422	678	530	85	2,004
高知県	0	248	266	1,262	320	170	2,266
福岡県	0	678	434	345	32	39	1,528
佐賀県	0	115	117	142	74	74	522
長崎県	0	137	130	139	970	36	1,512
熊本県	0	344	372	975	285	565	2,541
大分県	0	218	230	1,169	137	317	2,071
宮崎県	0	409	239	1,059	60	454	2,221
鹿児島県	0	121	167	759	662	63	1,772
沖縄県	0	214	114	21	338	0	687
里地里山 (全国集計)	1,417 (0.9%)	18,956 (12.7%)	23,316 (15.6%)	73,876 (49.4%)	11,262 (7.5%)	20,711 (13.8%)	149,538 (100.0%)

*全国の3次メッシュ数:378,743

→里地里山メッシュの類型別分布状況は参考資料2(P2)参照

3) 各類型区分における里地里山の現状

各類型区分における社会環境指標及び、土地利用規制との関係を分析した。結果を表 2-4、表 2-5 に示した。

表 2-4 各区分と都道府県別の社会的状況及び標高との関係

区分	人口 (千人)	人口密度 (人/km ²)	高齢化率 (%)	第一次産業率 (%)	平均標高 (m)
大都市近郊	7,261	4,873	16%	1%	57
都市周辺 (平地・盆地・丘陵地)	16,073	812	19%	5%	72
都市周辺(山地)	10,652	438	21%	7%	232
中山間地	6,658	88	29%	18%	256
海岸・離島	1,594	136	30%	19%	82
奥山周縁	288	13	33%	25%	734
里地里山 (全国集計)	42,526	275	21%	8%	280
全国	127,768	343	20%	5%	373

表 2-5 各区分と法的土地利用規制の関係

区分	市街化調整区域	農用地区域	保安林	近郊緑地特別保全地区	国立公園	国定公園	県立自然公園	自然保全地域	全体のメッシュ数*
大都市近郊	1,121 (79.1%)	477 (33.7%)	108 (7.6%)	67 (4.7%)	7 (0.5%)	8 (0.6%)	78 (5.5%)	7 (0.5%)	1,417
都市周辺 (平地・盆地・丘陵地)	11,379 (60.0%)	15,823 (83.5%)	4,326 (22.8%)	148 (0.8%)	375 (2.0%)	544 (2.9%)	1,149 (6.1%)	89 (0.5%)	18,956
都市周辺(山地)	10,521 (45.1%)	18,042 (77.4%)	9,351 (40.1%)	544 (2.3%)	638 (2.7%)	826 (3.5%)	1,886 (8.1%)	256 (1.1%)	23,316
中山間地	3,883 (5.3%)	62,752 (84.9%)	33,412 (45.2%)	62 (0.1%)	669 (0.9%)	1,574 (2.1%)	4,894 (6.6%)	404 (0.5%)	73,876
海岸・離島	423 (3.8%)	9,414 (83.6%)	4,593 (40.8%)	0 (0.0%)	1,853 (16.5%)	1,362 (12.1%)	885 (7.9%)	45 (0.4%)	11,262
奥山周縁	567 (2.7%)	9,917 (47.9%)	15,378 (74.3%)	12 (0.1%)	2,196 (10.6%)	1,624 (7.8%)	2,598 (12.5%)	305 (1.5%)	20,711
合計	27,894 (18.7%)	116,425 (77.9%)	67,168 (44.9%)	833 (0.6%)	5,738 (3.8%)	5,938 (4.0%)	11,490 (7.7%)	1,106 (0.7%)	149,538

*重複があるため、各区分の合計値と全体のメッシュ数は一致しない

(1) 大都市近郊地域

戦後の高度成長期に開発が進み、里地里山特有の自然環境は 30 年以上前の地形・土地利用の面影を残す稀少な存在となっている。メッシュ数は里地里山全体の 1%未満であるが、人口では里地里山全体の 17%を占める最も人口が集中した地域であり、第一次産業が占める割合は 1.1%と非常に低い。土地の資産価値が高く、現在も強い開発圧にさらされている一方で、保全に対する住民理解は得られやすい側面もある。しかしながら、継続的な保全には公的支援が必要な場合が多い。

近郊緑地特別保全地区など、国や都道府県の法令等で土地の公有化や行為規制を行うための支援施策が講じられていることが多い。

→大都市近郊の里地里山における土地利用の変化状況は参考資料 2 (P3) 参照

(2)都市周辺地域

①平地・盆地・丘陵地

里地里山全体の人口のうち38%を占める地域であり、6割が市街化調整地域に位置する。戦後の高度経済成長期に産業としての農林業利用は低下し、第一次産業が占める割合は5%ほどと低い。里地里山の管理の質は低下したが、土地利用の外面的形態はかろうじて現在まで残されている。また、ベッドタウン化した場所も多い。都市近郊地域による緑地保全施策の適応地域と周辺の水源保全施策の適応地域の間位置する。

面積的には比較的限られた地域ではあるが、行政は、農林業関連施策、森林の保全・活用施策等の個別施策によりそれぞれ対応している場合が多い。私有財産である場合、二次的自然環境全体としての適切な管理の継続についての利害調整が難しい地域である。

②山地

都市（人口集中地区）の水源域や後背山地となる河川中上流にある里地里山であり、造林地（人工林）と二次林等が混在する山地の谷沿いや周縁部に位置することが多い。現在は、第一次産業の占める割合が6.6%と低く、木材や農林産物の生産等の一次産業が低迷し、森林や農地の管理・利用の低下が見られ、都市住民の生活を支える水源涵養・防災等の機能の低下が懸念される。

都道府県が森林環境税（水源税）を導入し、都市部の税収を水源林の保全・活用に投入されている地域もある（神奈川県等）。

→都市周辺の里地里山における自然環境及び社会環境の状況は
参考資料2（P4～6）参照

(3)中山間地域

①中山間地域（海岸・離島以外）

他の地域区分のいずれにも該当しない地域に存在する地域であり、里地里山全体の約半数（49.4%）を占める。モザイク的土地利用を基盤とする我が国の里地里山の典型的なタイプの多くが分布している。森林については、全国的に、戦後の社会情勢等にあわせて植林され、人工林となっているところも多いが、かつては薪炭林・農用林として使用されていた広葉樹を主体とする二次林が、集落周辺に部分的に残されている。

都市周辺に比べると第一次産業の占める割合が高いが、小規模な農家が多く、農業経営の経済的な効率性の面から条件が不利な場合が多い。このため、近年は都市部への人口の流出が激しく、過疎化・高齢化が急速に進んだため、農地や森林の管理・利用の低下が進んでいる。一方で、地理的条件等の制約から、農業基盤整備が行われずに従来の農地や水系の形態が現在まで残されているものも多い。

林地や農地については地域社会の維持・活性化と環境保全の両立の観点からの施策が貴重な自然環境を有する地域については自然環境の保全・活用施策など、分野別の個別施策・事業がそれ

それぞれの地域において個別に進められている。

②海岸・離島

中山間地のうち、海岸部や離島に位置する地域であり、半農半漁を基盤とした自給的生活の強い小規模集落を形成している場合が多い。海岸や河川等の整備により、陸と沿岸海域との物質循環やエコトーンとしての機能の低下が懸念されている。

社会経済の変化に伴い、従来の自給的社会システムが成り立たなくなっており、人口の流出、農地や森林の管理・利用の低下が危惧される。

→中山間地域の里地里山における自然環境及び社会環境の状況は
参考資料2 (P7~9) 参照

(4)奥山周縁地域

高標高部の山地地域の谷沿いや山麓部に位置し、古くは焼畑や開拓等によって確保した農地からの生産物や、周辺の広大な森林・溪流から採取される資源を基盤として形成された里地里山である。また、中山間地域と比べて原始的な自然が多く、里地里山として捉えられる地域が含まれる比率は比較的小さい。

全区分の中で人口密度が 13 人/k m²と最も少なく、また、高齢化率は最も高い。現在まで集落として地域コミュニティが維持されてきたところであっても、生活形態は大きく変化しているが、部分的にはあるが伝統的な自然資源の管理・利用の技術や仕組みが継承されている地域も存在する。

→奥山周縁地域の里地里山における自然環境及び社会環境の状況は
参考資料2 (P10~12) 参照